

令和6年度 学校評価表

大田市立川合小学校

学校教育目標：ふるさとに学び 心豊かに たくましく生きぬく 川合っ子の育成
めざす子供の姿： 考え学び続ける子(知) 分かり合い助け合う子(徳) 一生懸命挑戦し、やりぬく子(体)

		中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	自己評価 アンケート										評価	改善 取組 の 重点
						教職員				児童		保護者		学校関係者評価委員 (地域)			
1	考え 学び 続ける 子	自ら考え学んだことをつなぐ子を育てる	◎主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善 ～能力ベースの授業づくりの視点から～	・授業の中で、児童自身が自分の言葉で説明したり、まとめたりする場を設定する。	・授業の中で自分の言葉で説明したり、まとめたりすることができたと回答した児童の割合80%	月1回は児童自身が主体的に調べたり、まとめたりする活動を行い、児童が自分の言葉で説明したり、まとめることができるよう指導した。	100%	授業の中で自分の言葉で説明したり、まとめたりすることができましたか。	73%					B	・主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善のための研修を校内研究とつなげて行う。 ・発達段階に応じた具体的な姿の共通理解を図る。		
2			ふるさと教育を軸にしたカリキュラム・マネジメントの推進	・ふるさと教育と教科学習をつなげた学習を行う。	・総合的な学習や地域学習を通して、考えたりまとめたりする力がついたと回答した児童の割合80%	各学年1単元以上ふるさと教育と教科をつなげた学習を重点的に行い、事前・事後の学習を充実させた。	100%	総合的な学習や地域学習で、地域について考えたりまとめたりすることができましたか。	85%	学校は、ふるさと教育に力を入れている。	95%	学校は、ふるさと教育に力を入れている。	100%	A	・ふるさと教育を充実させること、カリキュラムマネジメントを推進すること、どちらに軸があるか。 前者の場合、児童のアンケートの語尾が「できましたか」であると、能力を問われていると感じ、低く答えてしまうのではないかと。考えたりまとめたりしましたか」に変更した方がよい。後者の場合、児童や保護者にアンケートで聞くことはできないのではないかと。		
3			基礎基本の定着	・学力プラスチャレンジテストを行う。	・学力プラスチャレンジテストを月1回実施、8割の問題ができる児童の割合80%(再テスト可)	月1回プラスチャレンジテストを行い、自分の目標に向けた取組を促し、基礎学力の定着を図った。	100%	学力プラスチャレンジテストで合格できるようにがんばりましたか。	88%	学校は、定期的に学力を測り、子どもに基礎学力がつくように指導している。	88%	学校は、定期的に学力を測り、子どもに基礎学力がつくように指導している。	100%	A	・児童が見通しをもって取り組めるように、早めに範囲を提示する。学年に応じて計画表等を使い、意欲づける。		
4			図書館活用・ICT活用の推進	・教科や学級活動で図書館やICT機器を積極的に活用する。	・一人あたりの図書貸出し数年間100冊の達成及び職員・児童の肯定的な回答の割合が80%	教科等の指導において図書館またはICT機器を積極的に活用した。	100%	図書館や電子黒板、タブレットをたくさん使って学習しましたか。	97%	学校は図書館やICT機器(電子黒板やタブレット等の電子機器)を活用して学習指導をしている。	95%	学校は図書館やICT機器(電子黒板やタブレット等の電子機器)を活用して学習指導をしている。	100%	A	・今年度の取組を今後も継続して行っていく。		
5	分かり 合い 助け 合う 子	自分も友達も大切にしかかわろうとする力を育てる	◎仲間づくりの推進～学級づくり、縦割り班活動の充実～	・縦割り班を活かした活動をする。(清掃活動、なかよし班あそびなど)	・なかよし班の活動に仲良く協力し合って取り組んだ。と回答した児童の割合80%	学校生活の中で様々な機会に学年を超えて仲間づくりを意識した活動を行った。	100%	なかよし班の活動で協力し合って活動することができましたか。	95%	学校は、異学年交流の活動(清掃活動、なかよし班あそび等)などに積極的に取り組んでいる。	100%	学校は、異学年交流の活動(清掃活動、なかよし班あそび等)などに積極的に取り組んでいる。	100%	A	・今年度の取組を今後も継続して行っていく。		
6			生徒指導の充実	・生活目標を決め、目標達成のための取組を委員会活動と連携して行う。	・生活目標を意識して生活できたと回答した児童と保護者の割合が共に80%	生活目標に合わせた取組を児童会活動を軸に継続して行った。	100%	生活目標を守って生活ができましたか。	87%	川合小児童は、生活のルールを守って生活している。	96%	川合小児童は、生活のルールを守って生活している。	83%	A	・生活目標について学級での指導を適宜行う。 ・ルールを守ることにについて指導する。		
7			道徳教育の充実	・授業の中で子どもたちが考えをもてるように工夫をし、道徳コーナーで学びを目に見えようような環境づくりをする。	・道徳の時間に自分の経験や考えをもとに意見をもつことができたと回答した児童の割合80%	道徳の授業の中で子どもたちが考えをもてるように工夫し、計画的に授業を進めた。	100%	道徳の時間に自分の経験や考えをもとに意見をもつことができたか。	84%	学校は、道徳の授業を計画的に進めている。	88%	学校は、道徳の授業を計画的に進めている。	100%	A	・考えや意見を記録して残せるように学習活動を工夫する。 ・授業の様子を学級通信などで家庭に知らせる。		
8	一生懸命	挑戦し やりぬく 子	◎基本的生活習慣の定着 ～メディアをコントロールする力の育成～	・家庭でのメディアのルールを守るなど、より良い生活習慣を身につけさせるため「プラスチャレンジ週間」を定期的に実施する。	・ルールを守ることができたと回答した児童の割合80%及び学校と家庭相互が連携した指導ができたと回答した割合80%	「プラスチャレンジ週間」を通して、家庭と連携して個に応じた指導を行った。	86%	家庭で決めたメディアについてのルールを守りましたか。	85%	学校は家庭と連携して、また、家庭は学校と連携して、メディアについてのルールを決めて守るように指導している。	92%	学校は家庭と連携して、また、家庭は学校と連携して、メディアについてのルールを決めて守るように指導している。	100%	A	・プラスチャレンジ週間にあわせてメディアについての指導を行う。		
9	体力づくりの推進		・体力づくりの取組を年間を通して行う。	・体育的行事や体育の授業、業間マラソンに意欲的に取り組んだと回答した児童の割合80%	川合っ子タイム、体育的行事や体育の授業などを一生懸命やり抜く意欲が高まるよう指導を行った。	100%	体育的行事や体育の授業、業間マラソンなどを一生懸命やり抜きましたか。	97%	学校は、体育的行事や体育の授業、業間マラソンなど、体力づくりへの意欲を高めるよう指導を行っている。	92%	学校は、体育的行事や体育の授業、業間マラソンなど、体力づくりへの意欲を高めるよう指導を行っている。	100%	A	業間マラソン(マラソン大会)の行い方を検討する。			
10	給食指導・食育の推進		・給食などを通し、食への関心、感謝の気持ちを育てるように指導する。	・食への関心や感謝の気持ちをもって食べていると回答した児童の割合80%	食育(給食指導、食に関する指導)を通し、食への関心や感謝の気持ちを高めるよう指導した。	100%	毎日の給食に関心を持ち、感謝の気持ちをもって食べていますか。	90%	学校は、食育(給食指導、食に関する指導)を計画的に行っている。	95%	学校は、食育(給食指導、食に関する指導)を計画的に行っている。	100%	A	・時期にあった食に関する指導の充実を図る。			
11	開かれた学校づくり	家庭、地域との連携を密にし、よりよい教育を提供する学校づくりを進める	学校、保護者、地域との情報送受信	・学校の教育活動の様子を定期的に発信する。	・学校および保護者の肯定的評価がいずれも80%	校長室便り月2回、ホームページ毎日更新、各種便りを適宜発行し、学校の様子を発信した。	100%			学校は、教育活動の様子を地域や家庭に発信している。	92%	学校は、教育活動の様子を地域や家庭に発信している。	100%	A	・今年度の取組を今後も継続して行っていく。		
12			地域の教育力を活用した教育の推進	・地域の人・物・事の情報を共有し、教育活動を計画的に行う。	・各学年年2回は地域の教育力を活用した学習を行ったと回答した職員の割合80%	各学年年2回は地域の教育力を活用した学習を行った。	100%	地域(大田市内)の方といっしょに作業をしたり学習したりしましたか。	97%	学校は、地域の人材・組織を学習に取り入れている。	100%	学校は、地域の人材・組織を学習に取り入れている。	100%	A	・今年度の取組を今後も継続して行っていく。		
13	業務改善	ワーク・ライフ・バランスの適正化を図る	3領域(業務・時間・環境)での意識改革と働き方改革の成果化	・業務改善に関する取組を具体的に実行する。	・自身のワーク・ライフ・バランスがとれている及び業務改善が組織的に進められていると回答した職員の割合が80%	職場のメンタルヘルス対策が進んでおり、自身のワーク・ライフ・バランスがとれていると感じている。	100%						A	・今年度の取組を今後も継続して行っていく。			
14						職員会議のペーパーレス化や業務の平準化が組織的に進められていると感じている。	100%							・今年度の取組を今後も継続して行っていく。			

A: 目標値を達成 B: 目標値をやや下回る C: 目標値を大きく下回る(10p以上)